

未来^眼とうほく 第6回

復興を機に地域や産業のあり方を見直そう

平成21年4月に秋田県知事に就任以来、自身の公式ホームページを開設するなど「発言する知事」として活躍されている佐竹知事。今回の対談では、東日本大震災による今後の地域連携のあり方や、地元・秋田県の活性化の方向性、また、座右の銘に対する思いなど、さまざまなテーマについてお話をうかがった。

東北全体の連携が必要

- 町田 3月11日に発生した東日本大震災は、本当に不幸な出来事でした。これをどう地域の復興に結びつけていくか、知事の基本的なお考えをうかがいたいと思います。
- 佐竹 私自身は積極的な道州制論者ではありませんが、やはり「東北」というくくりは、

対外的に一つのまとまりとして受け止められています。農業にしても工業にしても観光にしても、東北各県だけでは完結できません。東北全体が連携して、初めて完結できることが多いと思います。

- 町田 おっしゃるとおりですね。
- 佐竹 先日、山形県知事の吉村さんと台湾に行きましたが、秋田と山形だけでなく、平泉も売り込んできましたし、早く仙台空港に定期便を飛ばしてくださいということも言ってきました。
- 町田 ただ、秋田県は今まで、どちらかというと「北東北3県」（青森、岩手、秋田）というくくりで発想されることが多かった気がします。
- 佐竹 それは否定しません。しかし、個別の問題は個別の問題として、東北全体がある程度ネットワークを結ぶことで、より効率的で大きな発信力を持つと思います。東北全体で一つの国、例えばオランダくらいの規模があるといわれています。したがって、今後は東北全体の連携が、より一層必要かつ重要になると考えています。
- 町田 内閣総理大臣の諮問に基づき設定された東日本大震災復興構想会議では、震災からの単なる復旧ではなく、未来に向けた創造的復興を目指していくことが重要であると明言しています。私は、東北全体の復興が、実は日本全体の活性化に結び付くと考えています。そういう意味で、東北全体の連携は日本の再生の、いわば出発点ともいえるのではないのでしょうか。
- 佐竹 その通りですね。

日本海側の連携強化も重要

- 町田 ところで、秋田県と山形県は、かつては出羽の国として一つにまとまっていた。東北の連携と同時に、日本海側の連携にも力を入れてほしいと思います。
- 佐竹 秋田県と山形県は、隣接しているにもかかわらず、交通体系が十分に整備されていません。鳥海山という、両県にまたがる素晴らしい観光資源があるの

に、それが観光ルートとしてまだまだ活かされていないのは残念です。流通関係においても、一極集中は危険だということで、仙台の拠点の復旧とともに、もう一つ、セーフティーネットとして秋田にも拠点を作るような動きが起きています。

- 町田 日沿道（日本海沿岸東北自動車道）に関して最新の動向はどうなっていますか？
- 佐竹 前の大島国土交通大臣の時に、山形県の吉村知事と一緒に陳情をしたら、間もなく「計画段階評価」（事業課題を明確にし、課題を解決するために必要となる整備案について妥当性等を比較・評価する）ということになりました。
- 町田 そうですか。日沿道の展望が少し見えてきたのは大変好ましいことです。
- 佐竹 かつて秋田が栄えた時代は、日本海の交易によるものです。秋田が栄えた頃は、酒田も山形も栄えていました。さらには、新潟、富山、金沢なども栄えていました。つまり、日本海側の連携というのは歴史の必然なのです。ですから、東北全体のネットワークのほかに、日本海沿岸の、新潟、富山方面まで至る、それから青森から北海道に至る“つなぎ”をしっかり整備することによって、もう一つの新しい日本の姿が見えてくるのではないかと思います。
- 町田 そのためには、港湾の連携も重要です。
- 佐竹 能代港と酒田港は、共に国からリサイクルポートに指定されています。そこで、コンテナ機能を主に秋田港で、リサイクル機能を能代港と酒田港で役割分担するプランを国に提案しています。実は、太平洋側の知事の方々からも、港湾も道路も鉄道も含めて日本海側の交通体系をしっかり整備してほしいとされているのですよ。例えばある知事は、もしも東海・東南海・南海地震が起きた時、日本海側の交通体系がしっかりしていないと、我々は助けてもらえないと言っています。誤解を恐れずに言えば、こうした発想は大変力強いものです。
- 町田 なるほど、おっしゃるとおりですね。話を港に戻しますと、港湾が連携すれば、東アジアとの交易も今以上に盛んになると思います。
- 佐竹 もはやアメリカ一辺倒の時代は終わりました。今後、東アジアを見すえた場合、日本海は一つの大きなグローバルシー（国際化された重要な海）になります。そうすると、秋田や山形は戦略的に良い場所になると思います。極端に都市化されていませんから。神戸や横浜などで、東アジア専用の交易を行おうとして

も無理でしょう。ですから、秋田と山形が連携して、周辺地域も含めて港湾整備をしっかりと行えば、秋田・山形が東アジア交易の重要な拠点になる可能性があります。

- 町田 経済活動は行政の枠を超えて行われています。行政サイドでも、“東北経済圏”を意識してそれをバックアップしていただくと大変ありがたいです。

観光客が増えれば経済は好転

- 町田 県政のトップとして、秋田県の活性化についてうかがいたいと思います。私は何度か角館を観光で訪れていますが、武家屋敷の街並みはすばらしいですね。
- 佐竹 観光産業というのは、第一次産業から第三次産業、しかも第三次産業の先端である情報産業も取り込んだ「総合的戦略産業」だと考えています。物質的なものが成熟してきた段階では、形のあるものではなく、違った文化を見たい、違った体験をしたい、あるいはさまざまな内面的な感動を得たいという欲望が生じます。そこで「旅」というものが非常に大きな意味合いを持ってきます。旅行者は当然消費をしますので、さまざまな産業とのつながりが大きくなるという意味で先ほどの言葉を思い付いたわけです。



佐竹 敬久 (さたけ・のりひさ)

1947年、秋田県仙北郡角館町（現・仙北市）生まれ。東北大学工学部卒業後、72年に秋田県庁入庁。工業振興課長、地方課長、総務部次長などを歴任し、2001年7月、秋田市長に当選。05年6月に再選。07年6月には、東北で戦後2人目となる全国市長会長に就任。09年4月、第62代秋田県知事に就任。旧秋田藩主佐竹家の分家・佐竹北家の第21代当主。



町田 睿 (まちだ・さとる)

1938年、秋田県生まれ。東京大学法学部卒業後、株式会社富士銀行入行。同行取締役総合企画部長、常務取締役を経て、1994年株式会社荘内銀行取締役副頭取、95年取締役頭取、2008年取締役会議長。09年10月より、フィデア・ホールディングス取締役会議長・北都銀行取締役会長。11年6月より荘内銀行取締役相談役（非常勤）を兼任。

●町田 かつての小泉総理も「観光立国」を宣言していましたが、観光産業は経済的な波及効果が非常に大きいですね。自動車産業と同規模ではないかと言う人もいるくらいです。ですから、知事が観光に力を入れておられるというのは、秋田県にとっては大変プラスになると思います。

●佐竹 情報化や高速交通化、国際化の中で、あるいは安全・安心を求めらる中で、観光客を受け入れる側も変わっていかねばなりません。私は、秋田の観光が一大産業になる可能性はまだまだ大きいと思います。これは正式ではありませんが、来年度は観光課という一つの課ではなくて、一つの部局単位ぐらいにして、県を挙げて観光に取り組もうとも考えています。

●町田 それは大変すばらしい構想ですね。私も、観光産業に携わる人たちだけがニコニコしてお迎えするのではなくて、県民全体が「秋田」という自分たちの郷土に誇りを持って観光客を迎えられる風土を築いていかなければならないと思います。

●佐竹 ちなみに、台湾からの観光客は、雪の大平原に感動するそうです。雪など、私たちにとっては当たり前前の存在なのですが。つまり、観光資源をわざわざ作らなくても、考え次第で、今あるものを十分活用できるのです。それが、私が秋田の観光はまだまだ伸びると考える理由の一つです。

スポーツ王国の復活に向けて

●佐竹 県では平成21年9月に「スポーツ立県あきた」を宣言しました。かつて秋田はスポーツ王国としてオリンピック選手も多数輩出していましたが、最近はや



今夏の第93回全国高等学校野球選手権大会1回戦で、能代商業は神村学園（鹿児島）に勝利し、秋田県勢14年ぶりの勝利を上げた。2回戦でも英明（香川）に勝利し、甲子園に旋風をもたらした。

や寂しい状況です。ですから、まず競技力の向上を目指します。同時に、スポーツを通じた地域の活性化や豊かなスポーツライフも推進します。スポーツが盛り上がることは、県民の勇気や元気につながります。今夏の甲子園で能代商業が活躍して（3回戦進出）、県民の心が一つにまとまったのはその象徴です。

●町田 秋田のスポーツがどうして強かったのかを考えてみますと、良い指導者がいたからではないかと思っています。これからは、良い指導者をどう招聘するかも大事な課題ではないでしょうか。

●佐竹 そうですね。指導者の影響力は大きいと思います。それから、レベルの高い大会を秋田で開くことも重要です。ハイレベルな試合を間近で見れば、その競技をする人の実力も向上します。

●町田 知事ご自身も、スキーの腕前は相当だそうですね。

●佐竹 一時、体調を崩したこともあって、今は自分では滑らないのですが、冬季国体のスキー競技を誘致しました（あきた鹿角国体2011、平成23年2月）。また、私が秋田市長の時に、秋田市役所ラグビー部を発展的に解消させて、クラブチームにしました。他の競技もそれぞれ課題はありますが、皆さんがんばっていますので、これからも応援していくつもりです。

●町田 私の経験から言うと、学校でスポーツクラブに入って運動をしていた時の方が、成績が良かったですよ。小学生、中学生で、学力も体力も秋田が全国トップレベルだというのは、スポーツを大事にして、将来の秋田県を担っていく人材を育ててきた成果だと思います。

●佐竹 もちろんスポーツがすべてではありませんが、子どもの時から集団生活や規律に触れ、また体力、気力を培うというのは、人間的にも大きく成長するのではないのでしょうか。

エネルギー自給率100%を目指して

●町田 話は少し戻りますが、先の東日本大震災では原子力発電所も甚大な被害を受け、電力の需給バランスが大きく崩れました。それゆえ、脱原発と軽々しくは言えないものの、エネルギー生産のあり方は考え直さなければなりません。その辺り、秋田県ではどのようにお考えでしょうか。

●佐竹 秋田県の2008年度のエネルギー自給率（エネルギー供給量／県内消費量）は、熱換算ベースで54.2%

でした。そして、2030年度には自給率を100%にできるのではないかと考えています。これは、風力や太陽光、地熱といった再生可能エネルギーの供給を増やすことで全体の生産量を増加させ、一方で、省エネ技術の導入で消費量を削減することによって、生産量＝消費量を達成するものです。

●町田 山形県でも、将来的には理論上、現在のエネルギー消費量と同じだけの再生可能エネルギーの供給が可能との試算結果が出ています。

●佐竹 秋田県の場合、2030年度でも火力の割合は53%です。ただ、2008年度は68%でしたので、割合的にはずっと少なくなります。その結果、二酸化炭素の削減効果は204万9千トンになると予想しています。再生可能エネルギーが活性化すれば、新たなエネルギー関連産業の振興や雇用創出効果が見込まれます。

●町田 環境問題が改善され、経済効果も見込まれる。まさに一石二鳥ですね。ぜひ実現していただければと思います。実は、現在フィデアグループが中心となって、東北における再生可能エネルギーを活用した産業振興・雇用創出を図るべく、「TOHOKUスマートシティ構想」を練っているところです。まだ関係機関と調整中ですが、行政にもぜひ協力していただきたいと考えています。

●佐竹 それは興味深いですね。加えてこれからは、エネルギーの“地産地消”、すなわち電力の自由化も進めるべきだと思います。

●町田 そうですね。自由化にはいろいろな面で困難がともなうと思いますが、私も進めるべきだと思いますし、世の中の動きも今後、そういう方向に向かっていくのではないのでしょうか。

「BY THE WIND」に込めた思い

●町田 ところで、知事は「BY THE WIND」という言葉がお好きかどうかがありました。

●佐竹 これは、帆船の操舵号令の一つで、「風上にできるだけ詰めて走れ」という意味だそうです。ヨットが風上に真っ直ぐ進むのは無理ですが、帆を屈折させて、向かい風を追い風に変えることで、ジグザグに進むことができるのです。

●町田 そうなのですか。

●佐竹 世の中というのは向かい風なことが多いものです。まっすぐに進むと、たいいてい跳ね返されますが、逆に、向かい風を利用しようと思えば、ジグザグで時



海岸に立ち並ぶ風力発電の風車群（秋田県三種町）

間がかかっても必ず目的地に到達できると信じています。

●町田 時代に適合していくためには、追い風だけでなく逆風にも向かっていかなければなりません。その意味では、本当にいい言葉だと思います。

●佐竹 率直に言って、私の政策にも逆風はあると思います。しかし、だから物事が進まないと言っていたら、県政を預かる意味がありません。常にまっすぐでなくても、途中ジグザグして時間がかかっても、最終的に目標が達成できればいいということで、この言葉を好んで使っています。

●町田 頼もしい限りです。関連してうかがいますが、知事の方からご覧になって、秋田県人の県民性はどのように映っていますか。

●佐竹 どうも、他と比べすぎる気がします。比べるというのは、相手に合わせるといことです。もちろん、相手に合わせなければならない時もありますが、いつも合わせてばかりだと、自分に自信がなくなってしまいます。だから、いつも私は「もっと自信を持ちなさい！」と言っています。それから、あまりしゃべらないということもありますね。自己主張は必要なことです。

●町田 しゃべることは、相手の信頼を得るためにも重要だと思います。特に、国際化が進みますと、しゃべらないことは最大の欠点になります。何を考えているのか分からないと思われそうですから。

●佐竹 人はみな、100%意見が同じということはありません。話をする中で、初めて良い答えが出てくることもあります。

●町田 おっしゃるとおりですね。本日は貴重なお話をありがとうございました。